

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【技術】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	<p>(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3つの要素に沿って、「導入→基本ページ→学習のまとめ」という学習の流れの中で、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで記述されるなど、構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、主体的に調べ、協働して比較・検討するための発問等を示した「活動」コーナーを設け、「知識・技能」習得のために、技術の原理・法則等を裏付ける図版や、課題に応じて必要な技能を選択できる写真等を掲載し、「思考力・判断力・表現力等」育成のために、持続可能な社会に向け、技術の評価等を目的としたワークシートを掲載するなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、問題解決に必要な技能をまとめた「TECH Lab」コーナーで大きく鮮明な写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視するために、「リンク」・「他教科」・「小学校」などのマークを用いたりするなどの工夫が見られる。</p> <p>(4) 技術分野に関わる問題や課題を見出すために、「問題の発見、課題の設定」に関する学習内容を設け、問題発見トレーニングをしたり、フィッシュボーンや5W1Hなどの思考ツールを紹介したりして、生徒が自ら課題設定できるような工夫が見られる。また、問題や課題を解決するために、QRコードのコンテンツや「問題解決カード」を設け、技術によって問題を解決する方法を分かりやすく示し、生徒が自ら解決できるような工夫が見られる。</p>	<p>ページ番号前の ①～② ③～P1</p> <p>P30～P33</p> <p>P83</p> <p>P50～P67 ③ P26、P30</p> <p>P38 P103、P171</p> <p>P39</p>
6 教育図書	<p>(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに、簡単な製作等を通して技能を習得する「つくって学ぼう」、計画を含めた設計を行う「じっくり学ぼう」、技術の評価を行う「学びを深め生かそう」という一連の流れの中で系統立てて学習を進めることができるようにするなど、構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、技術について調べ、考え、話し合い、振り返る「やってみよう」コーナーを設け、「知識・技能」習得のために、</p>	<p>ページ番号前の ③～P1</p> <p>P39、P71</p> <p>P28～P29</p>

	<p>実習題材の製作手順に沿った写真等を示し、技術の原理・法則を理解し、振り返るためのページを設け「思考力・判断力・表現力等」育成のために、問題解決の流れを「問題発見→考える→具体化→まとめる」の4ステップにまとめるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、製作等の手順に沿ってわかりやすく作業を進めることができるように、各工程に大きな写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視するために、各内容の冒頭に「リンクマーク」と教科名を表示したりするなどの工夫が見られる。</p> <p>(4) 技術分野に関わる問題や課題を見出すために、小単元ごとに「見つける」「めあて」「キーワード」があり、生徒が自ら学習課題を設定がしやすい。「やってみよう」では、身近なテーマを設定することで生徒の興味関心を高め、課題意識をもって学習に臨める工夫が見られる。また、問題や課題を解決するために、QRコードのコンテンツや「基礎技能」「技能チェック」「やってみよう」「学ぶ」の資料でわかりやすく示し、生徒が自ら解決できる工夫が見られる。</p>	<p>P37</p> <p>P28～P29</p> <p>P12, P72</p> <p>P12</p> <p>P19</p> <p>P28～P29</p>
<p>9 開隆堂出版</p>	<p>(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに、生活や社会の中にある技術に気付かせながら知識・技能を習得させ、それらを生かしながら「課題設定→設計・製作等→評価」という系統立てた一連の流れで問題解決学習を図り、振り返りながら定着させるなど、構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、積極的に取り組める「導入課題」や、他者と関わりをもてる「実験」等を設定し、「知識・技能」習得のために、身近なもの結びついた技術の解説により、原理等の理解につなげ、それらを生かした技能について説明し、「思考力・判断力・表現力等」育成のために、学習を見通せるような「問題解決の流れ」、既習内容を生かせるように関連項目を示すなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、理解しやすいよう実際に作業をしているような大きな写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視し、適切な場面で連携するために、「他教科」・「小学校」などのマークを用いたりするなどの工夫が見られる。</p>	<p>P6～P7</p> <p>P28～P29</p> <p>P38～P39</p> <p>P114～P115</p> <p>P69</p> <p>P160～P161</p>

	<p>(4) 技術分野に関わる問題や課題を見出すために、小单元ごとに「学習の目標」で課題意識を高められる。</p> <p>「調べてみよう」「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」では課題が示され、生徒が自ら問題を発見し、課題を設定できるような工夫が見られる。また、問題や課題を解決するために、「動作のポイント」やQRコードのコンテンツで課題解決のポイントを分かりやすく示しており、生徒が自ら解決できる工夫が見られる。</p>	<p>P22</p> <p>P40、P208</p> <p>P44</p> <p>P69</p>
--	--	--